

# 近大生が企画した「エコ・キャンドル作り教室」の開催 及び「キャンドル点灯セレモニー」実施について

近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻  
2年 横峯聖子, 福本姫菜

## 1. はじめに

近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻の学生で構成する Eco Crew は、2010年に結成され、現在 20名のメンバーが、「楽しみながらエコ活動」をモットーに、大学内外のさまざまなイベントに参加し、廃油を活用したエコ・キャンドル、及び残布を活用したエコ・ティッシュカバー制作を行っています。

ここでは、Eco Crew メンバーの横峯と福本が、小学生向けのイベントとして開催した「エコ・キャンドル作り教室」と、環境省の「クールアース・デー ライトダウンキャンペーン」に合わせて、開催されたキャンドル点灯セレモニーについて報告します。

## 2. イベント報告

### 2.1 エコ・キャンドル作り教室

本イベントは、企画段階から生駒市役所環境モデル都市推進課と連携し、小学生向けのキャンドル制作イベントとして、2017年7月1日に生駒市「たけまるホール」で実施しました。図1は、エコ・キャンドル作り教室の様子を示します。下記に、キャンドル制作工程を示します。イベント進行係は横峯が担当（図1(a)参照）、作業サポートは福本をはじめとする9名のメンバーが行いました。(1)～(2)は大学での事前作業、(3)～(8)は当日の作業です。

- (1) 廃油（生駒市環境保全課で回収したもの）を濾す
- (2) キャンドルに色をつけるため、クレヨンを細かく切る
- (3) ホットプレートで廃油を温め、凝固剤を入れてかき混ぜる
- (4) クレヨンの色を選び、グラスに入れる
- (5) グラスに廃油をそそぐ
- (6) 割りばしで1分程度、かき混ぜる
- (7) キャンドルの芯を入れて、割りばしで留める
- (8) 15分程度、固まるのを待つ

子供達には、グラス入りキャンドルを2個（セレモニー用、持ち帰り用）制作して貰いました（図1(c)参照）。本イベントでは「キャンドル制作」だけでなく、家庭からの生活廃油の問題等も紹介し、その後「残布を活用したティッシュカバー制作」も実施し、残布に関する問題も紹介させて頂きました。



(a)キャンドル制作の説明



(b)集合写真



(c)完成したキャンドル

図1：エコ・キャンドル作り教室（2017年7月1日生駒市「たけまるホール」にて）

## 2.2 キャンドル点灯セレモニー

本セレモニーは、環境省の「クールアース・デー ライトダウンキャンペーン」に合わせて、2017年7月7日に生駒市役所にて開催されました。キャンドル作り教室で制作した「エコ・キャンドル」や、6月25日の環境フェスティバルで制作された「ソーラー・ランタン」に灯りをともし、「地球に優しい生活」について考えることを目的として企画されたものです。図2は、キャンドル点灯セレモニーの様子を示します。

7月7日は、七夕ということもあり、「私の COOL CHOICE 宣言」と題して、参加者それぞれの想いを綴った（身近な生活でできる地球に優しい「賢い選択」）短冊が笹に飾られており、十人十色の宣言を拝見する事が出来ました。Eco Crew メンバー5名（横峯、福本、丹羽、岸本、南）も、セレモニー内で各自の COOL CHOICE 宣言を行いました（図2(a)参照）。横峯は、小紫生駒市長、「キャンドル作り教室」に参加した子供達と共にキャンドル点灯を行いました（図2(b)参照）。これらのキャンドルは、子供達がキャンドル作り教室で制作した物だけでなく、セレモニー用として Eco Crew メンバーが制作した物です。タワーのキャンドルが綺麗に灯っており、「エコ・キャンドル作り教室」に参加して頂いた方々は、もちろんのこと、全ての参加者の方々に楽しんで頂けて非常に嬉しく感じました（図2(c)参照）。



(a)メンバー紹介



(b)キャンドル点灯の様子



(c)点灯したキャンドル

図2：セレモニーの様子（2017年7月7日生駒市役所にて）

## 3. 参加者アンケートの結果

「キャンドル作り教室」終了後、参加者の皆様に制作体験に関するアンケートをお願いしました。ここでは、その結果について報告します。図3はアンケート集計結果を示し、アンケート項目は下記の通りです。

- (1) 廃油を使ったエコ・キャンドルを知っていましたか？
- (2) 廃油を使ったエコ・キャンドルを家でも作ってみようと思えますか？
- (3) 残布を使ったエコ・ティッシュカバーを家でも作ってみようと思えますか？
- (4) 7月7日クールアース・デーの日に、家でライトダウンを実施しますか？

項目(1)は、参加者の大半がエコ・キャンドルについて知っているとの回答でした。項目(2)は、作ると回答した人が7割となりました。理由は、「家にあるもので簡単にできそう」、「簡単に作れるし、楽しいから」等が挙げられていました。項目(3)は、ほとんどの方々が作ると回答されていました。理由は、「不要な布で作ってみたい」、「やりやすいから」等が挙げられていました。普段活動している大学のオープン・キャンパスでは、エコ・キャンドル制作の方が好評ですが、本イベントではエコ・ティッシュカバー制作が好評であったと言えます。保護者の方々が一緒に制作していることが影響していると考えます。

記述欄の「印象に残ったこと」では、「大学生が優しく教えて下さって、楽しく過ごせた」という意見を多く頂け、今回参加できた事に嬉しく感じました。「感想」では、「エコ・ティッシュカバーをつかってみようと思った」、「環境について考えるきっかけになって良かった」、「アレンジをしてみたい。」等の意見を頂きました。ぜひ、簡単でかつ不要な物で制作できるエコ・キャンドルとエコ・ティッシュ

カバーを今後も制作して頂ければ、幸いです。

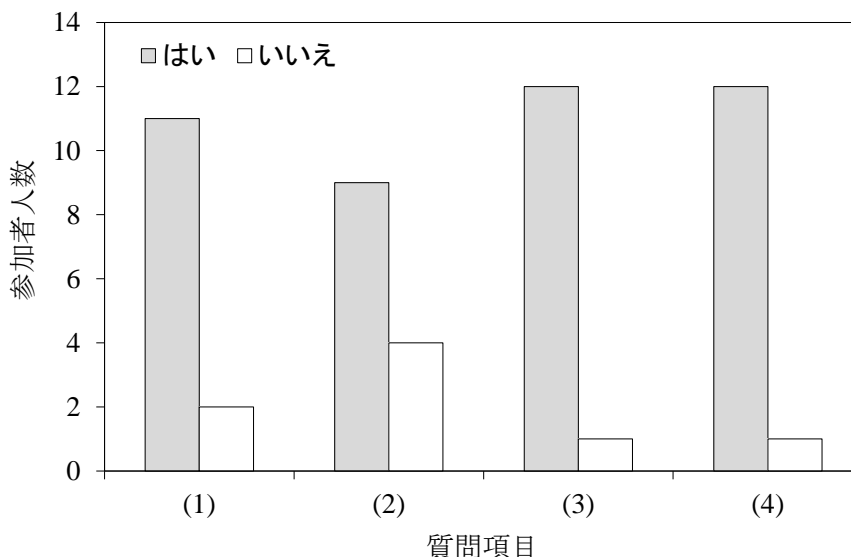


図3：アンケートの集計結果

#### 4. おわりに

Eco Crew の活動は、高校生向けのイベント（大学のオープン・キャンパス）をメインとしており、今回の「キャンドル作り教室」のような小学生向けのイベントは初めての試みでした。メンバー全員が不安を感じながらも当日を迎えましたが、事前準備や役割分担を決めてリハーサル等をしっかりと行ったことで、予定時間通りに、無事に終了する事が出来ました。

横峯は、イベント進行として、小学生に分かりやすく説明するため、パソコンとプロジェクター等を使用し、漢字にフリガナを付け、難しい用語は簡単な言い回しに変える等の工夫を行いました。終了後には、参加者の方から、感謝の言葉をいただき、今後の活動の励みとなりました。7日のセレモニーでは、緊張のため、上手くスピーチが出来ませんでしたが、綺麗に灯っているキャンドルを見て、改めてキャンドル作り教室の開催、並びにセレモニーに参加できた事に喜びを感じました。

2つの企画が無事終了したことで、廃油の臭いやキャンドルの点灯時間等のこれまで積み残してきた検討課題に対して、再度取り組む事を決意し、そのうえで、今後、生駒の皆様に対して、楽しみながら、「環境問題」に触れるエコ・イベントを検討したいと考えています。

最後に、「エコ・キャンドル作り教室」の開催にあたり、近畿大学総合社会学部の保本正芳先生、生駒市役所環境モデル都市推進課の竹田有希氏をはじめとする皆様の多大なるご支援、ご協力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。